

# 臨床現場を支援

新法人  
を設立  
宗教師など孤立防ぐ

ターミナルケアや看取りを含む福祉活動を行うため関西の仏教者らでつくるNPO法人「ビハーラ21」が、新たに一般社団法人を設立する。臨床現場で孤立しがちな臨床

床宗教師やビハーラ実践者をサポートするため、10年間の活動で培ってきた情報や、実習・研修の場などを提供する。法人の名称は「臨床宗教師ビハーラ協会」で、9月の

設立を目指す。東日本大震災以降、被災地や臨床の現場などで、人々の苦悩に寄り添い「心のケア」を行う宗教者の活動が注目されている。日本版チャプレン

「臨床宗教師」の養成を目的とする東北大の実践宗教学寄附講座などもあるが、研修を修了した宗教者からは「活躍の場がない」「いざ現場に出ると戸惑ってしまつ」などの声も聞かれる。

ビハーラ21の理事で真宗大谷派の僧侶・三浦紀夫さんは「こういった声が上がるのはコミュニケーション不足に原因があ

る」と言う。新法人は、現場と宗教者との間を取り持つ、潤滑剤のような役割を担う。

臨床宗教師などの研修を修了した個人が加盟することができ、「現場との連携の方法」「さまざま

まな看取りについて」など具体的な情報を提供される。また、各地域の介護施設や病院と宗教者の

本部は、在宅緩和ケアなどを行う岐阜県の沼口医院（医療法人徳養会）に設置。同医院はビハーラ21と共に東北大の実践宗教学寄附講座の実習先に指定されており、代表は沼口諭院長。

東北大の鈴木岩弓教授は「現場の先頭に立ち、活動の場を切り開いていってくださる、大変頼もしい存在。これからも共に歩んでいければ」と、ビハーラ21に期待を寄せている。（泉恵順）